



認定看護師便り

第10号

CNによる部署内研修会開催

第1回 周術期の体温管理と看護の実際

講師 手術看護認定看護師 濱崎弘子

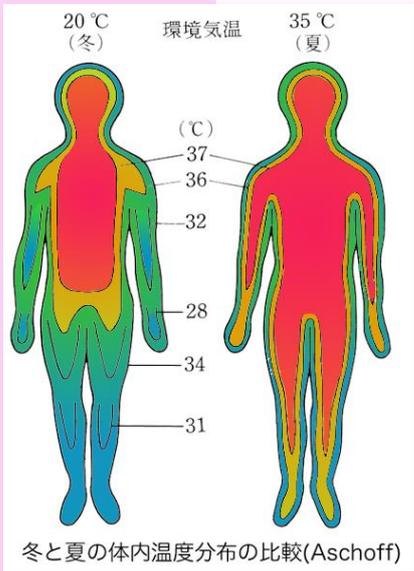


講義では、体温の生理学を復習後、麻酔下での体温の変化と看護の実際について説明し、デイスカッションの時間をもちました。知識を習得した上で、今自分達ができる看護について話し合ったことは大変有意義でした。



体温の生理学

身体の体表面の温度を外殻温度といい、深部の温度を核心温度といいます。免疫力や体内酵素の働きに最適な体温を維持するため、間脳の視床下部の体温調節中枢は、体温を一定に保つ役割を果たしています。



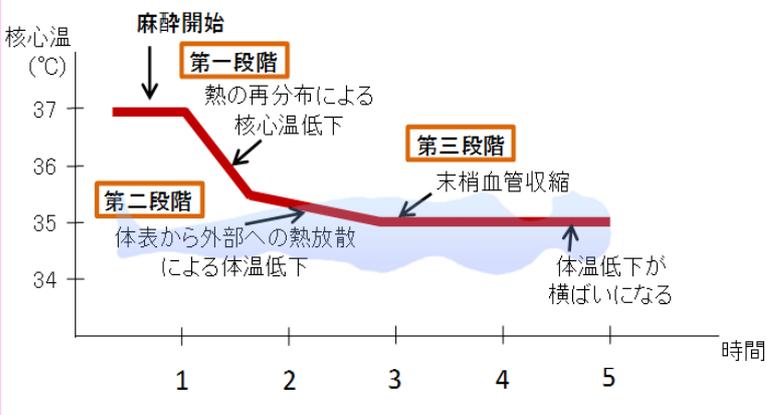
文責：手術部 濱崎弘子

西宮市立中央病院
Nishinomiya Municipal Central Hospital

麻酔がかかると患者の低体温予防は、大切

全身麻酔下では、体温調節中枢の抑制、交感神経抑制により末梢血管拡張が起こり、血液が急速に末梢に流れ、核心温度が低下します。講義では、低体温・高体温になるメカニズムや様々な低体温予防法について、CNの専門知識を生かした講義を行いました。

麻酔下での体温メカニズム



尾崎眞, 手術患者の体温管理. 医学出版社

今後、第2回、3回とCNが連携し、院内や部署内での研修会を通して看護の質向上を目指したいと思います。